

「アクアマリンふくしま」レポート

直近（1999～2000年）オープンの施設訪問記

新海洋ミュージアム
「アクアマリンふくしま」訪問記

編集部：Mt.1

目 次

1. 施設概要
2. はじめに：水族館の動向
3. 1階テーマ：“プロログ海・生命の進化”～4階：“ふくしまの水辺と海岸”
4. 3階テーマ：“南の海・北の海、海の文化と科学”
5. 2階テーマ：“黒潮と親潮とのあい”
6. 1階：その他
7. まとめ：感想と評価
8. おまけ：周辺について

1. 施設概要

運営：財団法人ふくしま海洋科学館

所在地：福島県いわき市小名浜字辰巳町50

構造：地上4階建て（展望台34メートル）

建築面積：8,815平方メートル（約2,667坪）

延床面積：13,714平方メートル（約4,148坪）

展示総水量：3,990トン（メイン水槽「潮目の大水槽」2,050トン）

オープン日：2000年7月15日

入館料：一般／1,600円（20名以上の団体は1,300円）

小～高校生／800円（20名以上の団体は650円）

開館時間：通常期／3月21日～11月30日 9:00～17:30

冬 期／12月1日～3月20日 9:00～17:00

※なお、入館時間は閉館1時間前まで。

休館日：毎週火曜日（その日が休日の場合は、翌日）

※なお、1月2・3日及び7月20日～8月31日は営業。

12月29日～1月1日

公式ホームページURL：<http://www.marine.fks.ed.jp/>

訪問日：2000年9月1日（金）14：30～

広域マップ（パンフレットより）



2. はじめに：水族館の動向

現在、日本の水族館は、(社)日本動物園水族館協会加盟の正会員では65館を数える。しかし、個人のホームページ等の一覧表を見ると、“とりあえず”魚がいる水槽がある資料館や動物園などを加えて150を超えている。

実は、本格的な水族館であっても、その大半は高度成長期に建てられ、鑑賞を目的として小規模な水槽を壁に埋め込んだような施設がほとんどで、目玉となる海獣や大型魚類の大水槽を設置している例は限られている。その結果、蒲郡市竹島水族館(当ホームページ「地域診断」で紹介)などのような、施設の老朽化や内容の陳腐化等による来館者減少で、リニューアルさらには閉館を余儀なくされているケースや、'98年の長崎水族館のように39年もの長い歴史に幕を閉じたところもある(市民の強い要望により、平成13年春移転リニューアルオープン予定)。

一方で人気を集めている例もある。90年代に建てられた新しい水族館に多く、品川水族館(東京)、海遊館(大阪)などが代表的だ。これらでは、大規模な水槽や水中トンネルに、複数種の海獣ショーなどのアミューズメント性を加味し、鑑賞空間を超えて、デートスポットとしての人気も博している。その活況から、「本格的な規模+アミューズメント」をコンセプトとするリニューアルが主流となってきた。2000年には「アクアス(しまね海洋館)」「アクアマリンふくしま」が新規オープン、さらに2003年には、函館の人工島「緑の島」に水族館とアミューズメントパークの複合施設「函館アクアコミュニティ」がオープンする予定等、90年代に続いて新設オープンの活況は続きそうである。

今回レポートする「アクアマリンふくしま」は、国の多極分散型国土形成促進法に基づく「いわき振興拠点地域構想」、福島県長期総合計画、さらに「小名浜港再開発計画」の中核施設として、2000年7月15日にオープンした。“海を通して「人と地球の未来」を考える”という基本理念をもとに、「水族館」を中核として「海洋博物館」「海洋科学館」の機能を併せ持つ新しいタイプの「海洋ミュージアム」を目指している。

メインテーマは“潮目の海～黒潮と親潮のであい～”。福島県が接する太平洋の海の最も特徴的な事象である「潮目」を取り上げ、豊かな生物を中心とした自然、科学、人と海との関わり合い、そして地球環境問題まで幅広く紹介するという。

[次ページへ](#) 



「アクアマリンふくしま」レポート

3. 1階テーマ：“プロローグ海・生命の進化” ～4階テーマ：“ふくしまの水辺と海岸”

常磐自動車道「いわき湯本」I.C.を降り、一般道を20分ほど進むと、海が見えてくる。地元FMをBGMにドライブを楽しんでいると、これから向かう「アクアマリンふくしま」からのライブ中継放送をやっている。地元では、有名スポットとして知名度があるようだ。

道中、案内看板が交差点などの要所に相当数が設置してあり、迷うこともなく、駐車場へ到着。そのスペースは広く、ざっと見て約100台分以上はある。観光バスも駐車しており、団体客の訪問も多いようだ。入口に向かいながら駐車中のナンバープレートをチェックすると「茨城」「いわき」「福島」「宮城」などの東北ナンバーが多数を占めていた。

1階ゾーンマップ



建物外観は全面ガラス張りで美しい。海と空のブルーをバックに絶妙のコントラストを醸し出している(写真1)。1階エントランスから建物内部のエスカレーターで、いったん4階まで上ってから、下りながら見ていく動線(もちろんベビーカー、身障者用にエレベーターも完備)である。エスカレーターまでの導入路の左側は、ガラス張りの向こうに小名浜港の遊覧船乗り場や太平洋を望むことができる。

続くエスカレーターまでの通路は“海・生命の進化”をテーマに、海のは乳類、魚類の化石や模型、“生きた化石”といわれるカブトガニやオウムガイ等が展示されている(写真2)。照明を落とし、什器も黒色を中心に、展示物をライトアップして、幻想的なムードを演出する。いくつかの化石には、大きく説明が飾られ(写真3)、わかりやすかったが、大半は「これは何? 魚?」と思うだけで、パンフレットにあるような“生命の進化と歴史をたどる”時系列性はない。

さらに太古の海の生き物の模型パネル(写真4)にしては、説明書きも小さく、一体いつ頃の何という生物の祖先なのか全くわからない。いかにも混雑時のエスカレーター待ち対策というイメージ。学習という目的からも、わかりやすい時系列展示(していたかも知れないが筆者は理解できなかった)や図表を多用した説明が望まれる。

エスカレーターに乗ると、壁面に液晶モニターが複

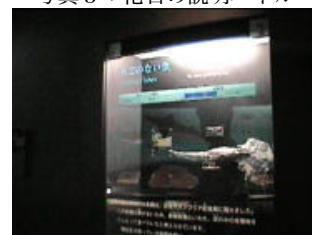
写真1：正面エントランスからの外観



写真2：カブトガニ



写真3：化石の説明パネル



数設置され、魚が泳いでいるVTRが放映され(写真5)、雰囲気づくりに一役かっている。エスカレーターで1人が見ることができるのはせいぜい10秒ほどなのに、非常に贅沢な演出である。

エスカレーターを登り切ると、白とブルーのさわやかなユニフォームを着たコンパニオンが満面の笑みを浮かべて「こちらへお進みください」と案内してくれる(写真6)。これもまた贅沢な案内である(たぶん混雑時の安全対策であろうが、閑散時には看板1つでいいのでは?)。

写真4：太古の生物模型



写真5：エスカレーター横の液晶モニター

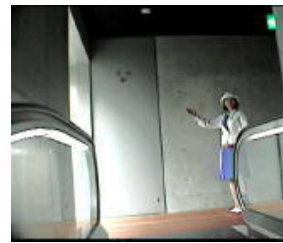


写真6：エスカレーターゾーンマップ



最初の展示ゾーンとなる4階スペースのテーマは“ふくしまの川と沿岸”。福島県の豊かな自然環境を再現し、川、池、沿岸に生息する様々な生き物を川の流れて沿って紹介している。

ガラス張りの天井からの自然光に包まれ、非常に明るくなっていることにまず驚かされる。(写真7)。これは暗い1階との対比効果であろう。ここには、植物が多数植えられ、専用の植物マップのパンフレット(写真8)も用意されているほど。

写真7：非常に明るい4階



写真8：4階植物マップ

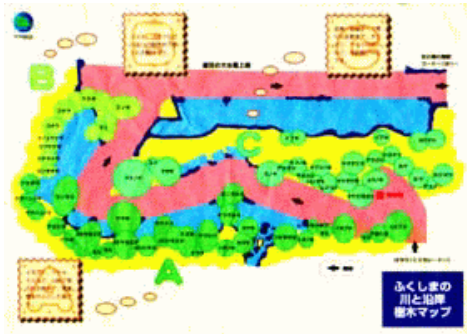


写真9：断面がよく見える



それぞれの展示は、川や池を垂直に切った断面をガラス張りにして(写真9)、中の生物を見ることができる。説明書きも透明なアクリル板を採用し、雰囲気を壊さないように工夫されている(写真10)。また、タッチパネルの説明用モニターも低い位置に設置され(写真11)、子供でも利用しやすい。ちなみに全ての動線は、ベビーカーや車椅子にも対応したバリアフリーに配慮されている。

写真10：透明アクリルの説明板



写真11：タッチパネルの説明用モニター

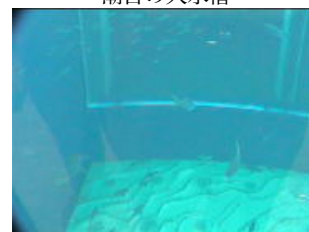
展示生物は、上流のイワナ・ヤマメから始まり、下流のハゼまで、水草や貝類まで自然のままを再現し、都会では見ることのできない自然に感動を覚える。

4階の最後はこの目玉“潮目の大水槽”を上部から

見ることができる（写真12）。2階分の深さがある水槽を覗くと大型のサカナが悠々と泳いでいる。このイントロは、大水槽を早く見たいという気持ちをあおり、期待感を高めている。自然に足早となり3階へ。



写真12：上から見た
“潮目の大水槽”



[← 前ページへ](#)

[次ページへ →](#)



空間
通信
[トップ](#)

「アクアマリンふくしま」レポート

4. 3階テーマ：“南の海・北の海、海の文化と科学”

3階ゾーンマップ



最初は“北の海の家”。アザラシ、セイウチ、ラッコ (写真13) が愛嬌を振りまき、老若男女大喜び。ほとんどの人が海獣をバックに記念写真を撮る。

ここの構造だが、通路の中央を1mほどステージ状に高くして、子供や車椅子の人であつてもちゃんと見学できるように配慮されている。さらに写真を撮影するにも適当な高さである。そこには、他と同様に大きな説明板と説明モニター (写真14) が設置され、海獣の生息地図や特徴などを説明している。ところが、そういった設備には目もくれず、ほとんどの入場者は、海獣類の珍しさと思いの他の可愛らしさで、水槽に張り付いていた。

次は屋内展示の“オセアニック・ガレリア”。ここは、海の潮目を文化と科学の視点から紹介する参加体験型コーナーである。小名浜地域の漁業をフォーカスして、縄文時代から現代に至るまでを順を追ってジオラマ、貝塚地層、パネル、液晶モニターによるVTR (写真15) で説明している。

その横では、「伝馬船」のシミュレーターがあり、子供が得意げに櫓をこぎ、親がカメラを回していた (写真16)。これはシンプルでわかりやすいせいか、大人の挑戦も多数見られた。そこから先は、海流儀、パネルとTVR説明など (写真) により、「潮目」についての解説が続く。図表を多用し、非常に見やすい工夫にも関わらず、じっくり見ている人はほとんどいなかった。残念なことである。

次の人集りは「サバいばる」。サバに乗って、大型魚を避けながら小型魚を捕獲していくシミュレーションゲームである。ブルーバックのステージの椅子に座る (写真17) と、合成画像でモニターにはサバに乗った姿が映し出され、ジョイスティックによって上下前後にコントロールする。ゲーム中のユニークな映像は大型モニター (写真18) に映し出され、見ているだけでも楽しいという狙いである。

写真17：合成画像ゲーム“サバいばる”

写真13：大人気のセイウチ



写真14：ここにも説明用モニターが



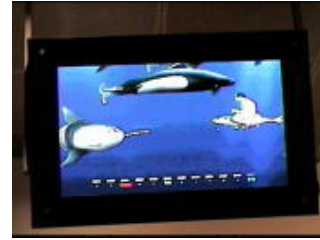
写真15：縄文人の漁を説明するVTRを流すモニター



写真16：伝馬船シミュレーターは人気コーナー



写真18：ゲームの様子が大型モニターに映し出される



その他、数種類のプランクトンを顕微鏡やVTRで見る「マイクロアクアリウム」(写真19)、イワシ・クラゲの水槽、絶滅危惧種の魚介類の水槽など、生物の展示スペースもある。また、一番奥に担当するスペースには「ワークショップ」(写真20)があり、1日5回様々なテーマを15分間解説している。ちなみに取材当日のテーマは「縄文人は美食家だった？」であった。

写真19：マイクロアクアリウム



写真20：3階奥のワークショップ

順路に沿って進むと、今度はガラス天井の演出となる“熱帯アジアの水辺”(写真21)。黒潮の故郷、熱帯アジアの水辺を再現している。

ここも4階の“ふくしまの川と沿岸”と同様、樹木が多いので、植物マップが用意されている(写真22)。メダカサイズの美しい熱帯魚やカメなど多数いたが、ここの人気はマングローブ林の干潟に生息するムツゴロウ。ユニークな動きに「かわいい!」という歓声が飛びかっていた。



写真21：ここも自然光がまぶしい

写真22：3階の植物マップ



[前ページへ](#)

[次ページへ](#)



「アクアマリンふくしま」レポート

5. 2階テーマ：“黒潮と親潮のあい”

2階ゾーンマップ



ここからはまた室内に入り、まずは“珊瑚礁の海”（写真23）。高さ約3mの大型水槽に創造された珊瑚礁の間を美しいチョウチョウウオやススメダイなどが泳ぎ回っている...と企図したのであるが、珊瑚の色は悪く（死んでいる？）、泳いでいるのはサメと中・小型のヒカリものであった。なぜかチョウチョウウオやススメダイは青一色に塗られた別の小さい水槽で泳いでいた（写真24）。

次は展示空間としては目玉となる“潮目の海”。ここは、潮目のトンネルを境にカツオやキハダなどが群をなして泳ぐ「黒潮」と、ニシンの群や海草がしげる「親潮」の表情を比較して見るができる。

水槽は巨大で、ガラスの高さは約6m、その水槽をスクリーンに見立て、反対側には約50席の観客席を設置している。これは劇場を意識した演出である。

また、コンパニオンによる説明（写真25）を実施し、天井から複数のモニターでこの水槽へサカナが来るまでの裏話や、潮目の解説等の参照映像を流している（写真26）。意外とこれは好評のようで、観客席は満席だった。

水槽を見ると、親潮は岩や海草により、その雰囲気は感じられる（写真27）のだが、「黒潮」の方は何の演出もなく、ただのプール（写真28）。明確に違いを出すためか、メンテナンス上のことかも知れないが、砂を敷くとか、何らかの演出が欲しいところである。

写真23：イメージした珊瑚の海ではない？



写真24：別水槽にいたチョウチョウウオ



写真25：コンパニオンによる説明も



写真26：解説モニター



写真27：親潮の水槽



写真28：黒潮の水



順路に沿って観客席を横切り、次の“オホーツクの海”へ。ここはオホーツクの流水の下で暮らす生物を展示している。小さい水槽にはホウボウ、タラバガニ、ウミオオカミ（ウツボ？）などを確認できた（写真29）。特に珍しいわけではなく、巨大水槽を見た後ということもあり、それほど感動的ではない。長期飼育の可能性は不明だが、海の天使といわれる「クリオネ」など、珍しい生物の展示などの工夫が欲しい。

写真29：ウミオオカミ



順路通りに“潮目の大水槽”へ戻ると、“潮目のトンネル”を通る（写真30）。ちょうど「親潮」の水槽にダイバーが入り、トンネル部分を拭き掃除（写真31）。横から見ると、トンネルを通る人に手を振っているように見えるので、子供たちは大喜びでダイバーに手を振る。しかし、当のダイバーは生真面目に黙々と仕事に集中している。リクエストに応じてあげるぐらいの余裕があってもいいのでは・・・。

写真30：この目玉
“潮目のトンネル”



トンネルを抜けると“ふくしまの海”。世界で初めて水槽内繁殖に成功したサンマ（写真32）をはじめ、福島で参照可能な魚類が展示されている。サンマの水槽内繁殖が難しいとは言っても、見る方は魚屋に並んでいるサンマが生きて泳いでいるだけで、正直いって、その凄さがピンとこない。実際、みんな口々に水族館ではおなじみの「焼いたらうまそー」「生きているから刺身でもいけるね」などと談笑する始末である。

写真32：世界初の水槽内飼育されたサンマ



写真31：黙々と仕事に集中しているダイバー



サンマの水槽を過ぎると“情報コーナー”“タッチングプール”と学習がテーマ。“情報コーナー”では、パソコンやDVD、図書から海に関する情報を得ることができる（写真33、34、35）。DVDは約50種類が用意され、パウチ加工したカードをリングでつづり、検索しやすい工夫がされていた（写真36）。

写真33：情報コーナー入口



写真34：パソコンの操作も教えてくれる



“タッチングプール”は、福島県にある磯を再現し、そこ生息する生物を解説員の説明を聞きながら、触ったり、手に取ったりできる（写真37）。都会の子供には、興味深いコーナーであろう。対象となるのは、ウミウシやウニなど。小さなバケツに入れており、係員がそれをわかりやすく説明してくれる。同行した女性記者は、「ウニに触ったあ」とその体験に大喜びだった（年はいくつだ？）。

写真35：海に関する図書も展示
グプール

写真36：見やすいDVDリスト

写真37：タッチン



[前ページへ](#)

[次ページへ](#)



空間
通信
[トップ](#)

「アクアマリンふくしま」レポート

6. 1階：その他

1階の「マリンシアター」は、国内最大級の450インチ大型ハイビジョンで、海の珍しい生物を追った美しいオリジナル映像が楽しめる(写真38)。しかし、中を覗くと誰もいなくて、何も放映していない。さらに、放映番組や予定時間の表示も見あたらない。目玉アトラクションの1つにもかかわらず、もったいないなあと思いつつ、素通りして展望室へ向かう。

展望室は、地上34mの高さにあり、総ガラス張りの細長い四角いビルのイメージ(写真39)で、エレベーター(写真40)で向かう。展望室は、幅4m奥行き20mほどのスペースに、360度のパノラマが広がる。そこからの眺望だが、半分は海、半分は海岸線に広がる工場地帯で、それほどの感動はない。お決まりで望遠鏡と見える方向を説明したパネル(写真41)はあったが、誰も見る人はいない。景色にもすぐに飽きてしまい、再びエレベーターで1階へ。

エレベーターを降りて突き当たりはミュージアムショップ「ウミノス」。海や自然をテーマにしたオリジナルグッズを販売している。20坪ほど(写真42)の売場は、魚や海獣のぬいぐるみ、貝のアクセサリー、オリジナルキャラクター入りの文具などを品揃えしている。

ここのオリジナルとして 編集部で買ったお土産は次の5点。

- (1)クリアファイル「サンマ」(写真43) 200円...世界初の水槽内養殖に成功したサンマをデザイン。
- (2)クリアファイル「meeting fish」(写真44) 230円...海の生き物のイラストがかわいい。
- (3)ノート(写真45) 300円...中は水面がプリントされている。
- (4)ハンディタオル「クラちゃん」(写真46) 650円...クラゲのクラちゃんがシュール。
- (5)サンマ群シール(写真47) 350円...七厘や焼き網もあり、組み合わせて塩焼きに。

同行の女性記者は「クラちゃんタオル」がお気に入りであるが、少々値段が高いかも。

写真38：マリンシアター入口



写真39：展望室外観



写真40：展望台エレベーター



写真41：展望台の眺望説明パネル



写真42：ミュージアムショップ「ウミノス」
トがかわいい

写真43：サンマのクリアファイル

写真44：イラスト



写真45：オリジナルノート
ンマシール



写真46：「クラちゃん」タオル



写真47：サ



写真48：海風が気持ちいいテラス



「ウミノス」横のドアを出ると、ファーストフード中心のメニューが用意されている屋外のテラス (写真48)。ガラスの防風壁を設けること (写真49) で、海風は気持ちよい。水鳥が羽を休める景色も落ち着ける。しかし、さすがにいい席はすでに満席 (写真50)。仕方なく室内レストランへ。

写真49：ガラスの風貌壁を設置



レストランもガラスに仕切られた室内で、テラスと同じ景色が楽しめる (写真51) にも関わらず、ガラガラ (我々を含め3組)。季候がいいときは、やはり外にいたいのが人情である。メニューを見ると、食事の値段はこういった施設にしては妥当で、スパゲティ、カレー、ピラフ600円~など (写真52)。全員アイスコーヒー (280円も妥当) を注文し、一休みしたところで、今回の取材は終了した。

写真52：レストランメ

写真50：心地よさで全て満席
ニュー

写真51：レストランはガラ空き



[前ページへ](#)

[次ページへ](#)



「アクアマリンふくしま」レポート

7. まとめ：感想と評価

この施設のメインテーマは、福島県沖の太平洋の大きな特徴である“潮目の海～黒潮と親潮のであい～”。実際に入ってみると“海の生命の進化”というグローバルなテーマから始まり、次いで“ふくしまの水辺と海辺”という地域色を出したテーマに変わり、次は親潮と黒潮の故郷“南の海・北の海”に広がり、メインテーマの“黒潮と親潮のであい”を大規模な造り込みによるクライマックスで迎えるという、一貫したストーリーがあって、大変わかりやすかった。

また、見るだけではなく、触ったり、参加体験したりと工夫も見られ、来場者満足度を非常によく考えた構成であった。余計な心配かも知れないが、建設美のために外観を総ガラス張りにしたということは、メンテナンス費用（清掃、空調等）を考えていたのか、疑問が残る。ここのような海岸立地では、潮風が吹き、ガラスが汚れやすいと思う。

個人のホームページでの同館の感想を調べてみると、オープン当初は、行列ができるほどの大盛況だったとか。しかし、20分～1時間も待っていたわりに、具体的な感想は述べられていない。今回のレポートは、ミステリーショッパーでしかも絶対評価であるが、編集部としては現代の“水族博物館”として良くできていると評価したい。

8. おまけ：周辺について

実は5年ほど前に同地を釣りで訪れたことがある。その頃は、当該地はただの巨大な堤防だったが、その後の「小名浜港再開発計画」の具体化で、施設周辺は公園的な整備が進み、いわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」もオープンした。

これは、いわき市の見どころ、遊びどころ情報をはじめ、セリ気分で買い物ができる鮮魚店、新鮮な海の幸を堪能できるレストラン、遊覧船「いわきデイクルーズ」のターミナルなどがある観光スポットとなっている。1階の鮮魚店コーナーは市場風の対面販売を行っているのだが、平日で人が少なく、活気が感じられなかった。それに、どこも同じような海産物を扱っており、各々店の特徴がわからない。それに、威勢のいい店主の呼び込みも、日頃スーパー等でのセルフ販売に慣れた人が利用すれば、ちょっと気後れするだろう。

その中で、いわきの観光資源や地場産品を紹介する「ライブいわきミュウじあむ」は、2階の広いスペース（約50坪）を使い、不思議な空間を造っている

（図）。ほとんどがパネルや民芸品展示なのだが、コストをかけたと思われるコーナーが2つあった。その1つ「世界の港町クルージングシアター」は、クイズに解答しながら航海シミュレーションするミニシアター。しかし、1コースの設定が14分と長い上、シートに取り付けてあるスピーカーがまともなのは半分（壊れたスピーカーにスーパーバックがかぶせて「故障中」と書いてある）、クイズは大人でもすぐには答えが出てこない内容という条件が重なり、3問（時間にして約5分）でやめてしまった。想像するに、シアター形式の機器を導入することだけで満足し、メンテナンスを行わず、ソフトも業者任せだったのだろう。“いわき”を紹介するという意図も伝わらず、見事に“つまらないもの”を実証している。

もう一つは「マジックビジョン蒲鉾物語」。これは、いわき市の地場産品の代表である蒲鉾の製造工程を、いわきの歳時記と人々の暮らしをドラマ仕立てで紹介するもの。内容は子供が見てもわかりやすくなっており、また実写動画映像を特殊ハーフミラーに投影するという方法で、動く紙芝居風の不思議な映像に最後まで見入ってしまった。

みなさんも「アクアマリンふくしま」へお出かけの際は、ちょっと覗いてみて、

評価していただきたい。

■いわき・ら・ら・ミュウ

所在地：いわき市小名浜辰巳町43-1

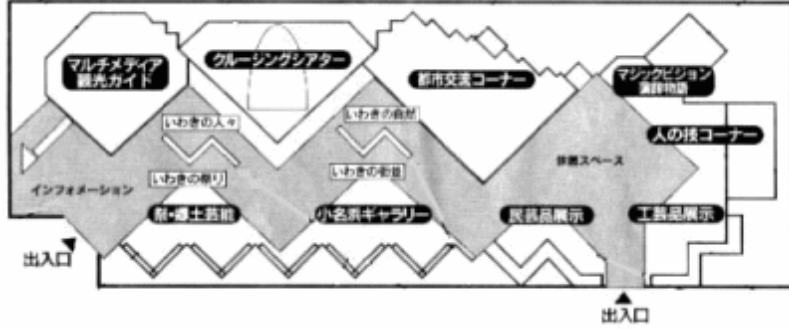
問い合わせ：Tel0246-92-3701

駐車場：624台

開館時間：8:00～22:00（店舗により異なる）

休館日：第3水曜日

図：「ライブいわきミュウじあむ」ゾーニング



[前ページへ](#)

[アクアマリンふくしまTOPへ](#)



空間
通信
[トップ](#)